

2023 統一地方選

# 選択の行方

今月、真庭市の医療関係者の中に衝撃が走った。月末で市中心部の病院が閉院するというのだ。

2009年に津山市で、11年には真庭市でも病院が経営に行き詰まった。18年は岡山県美咲町内の診療所が閉院の危機に陥った。

厳しい状況にある医療機関に追い打ちをかけたのが新型コロナウイルス。入院患者の減少などが経営を圧迫した。

「地域医療の崩壊は、地域の崩壊を意味する。生き残りに懸命」。金田病院（真庭市）の金田道弘理事長はこう語る。

## 下位3分の1

医師不足と偏在化も深刻だ。19年度にまとめた「県医師確保計画」によると、岡山県は全国第4位

### 第4部 課題を追う ③ 医療崩壊

# 医師の偏在、高齢化深刻

の医師多数県となる。医師数だけでなく、医療ニーズ、人口構成、医師の性・年齢構成などを踏まえて算出された医師偏在指標は国が採用した数値で、大きいほど医師が集中していることを示す。岡山は283.2。

300を超える東京、京都、福岡に次ぐ順位だ。ところが、県内五つの医療圏域ごとにすると、偏在の実態が明らかになる。

高梁・新見と真庭は、全国で下位3分の1に入る医師少数区域。津山・英田は少数ではないものの予断を許さず、医師多数に当たる県南東部と県南西部でも岡山、倉敷市を除けば医師不足を露呈する。



金田病院で診察する内科医。県北部の医療を支えるために医師確保は急務だ

県は、岡山大の地域枠や自治医科大の卒業医師ら若手の確保、キャリア支援、女性医師の離職防止、勤務環境改善など多様な施策を展開し、解消を目指す。計画は23年度末までに高梁・新見

で7人増の93人、真庭では現状維持の78人を目標に据えるが、県医療推進課は「実現は厳しい」と漏らした。

## 連携と統合

地方の医療は大病院などから派遣される医師で維持されているのが実情だ。金田病院でも常勤15人と約30人の非常勤医師で診療を支える。

そこに、24年からの「医師の働き方改革」が迫る。勤務医の残業時間に上限が設けられ、非常勤医師の派遣が制限されることも考えられる。派遣先で診療科の日数減少といった影響が出る可能性もあるという。

医師の高齢化も悩ましい。高梁・新見圏域や久米南、和気町、岡山市東区、玉野、浅口市などは平均年齢が60歳を超えている。真庭圏域や美作、笠岡、瀬戸内市も55歳をオーバー。若い医師の確保は急務となる。

コロナ禍で注目が集まったかかりつけ医の機能も、医師不足が続けば、立ち行かない危険性をほらむ。問題は山積みだ。

地域医療の存続を念頭に、金田病院は競合関係にあった落合病院と連携する道を選択した。診療科の分担や医療機器の共同利用などの取り組みを進める。金田理事長は「病院規模を縮小し、圏域外も含めて役割を明確にし、連携と統合を進める段階に来ている」とし「崩壊を防ぐためのシステムが必要だ」と強調する。

25年には団塊の世代が後期高齢者となり、団塊ジュニアが65歳以上となる「2040年問題」も迫る。病気があっても住み慣れた地域で暮らし続けたいという人々の願いはかなうのか。

地域医療に詳しい川崎医療福祉大の浜田淳特任教授は「医療と介護を包括的に考えることが重要。地域ごとに課題を把握し、関係機関が知恵を出し合っ工夫しなければならぬ」と話していた。

(斎藤章一朗)